

平成30年度アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取市立稲葉山小学校

- 1 期日 平成30年11月7日
- 2 場所 鳥取市立稲葉山小学校
- 3 研修内容

○研究主題

『豊かにつながり合い、学び合い、高め合う子どもの育成』
「主体的な学習の充実と、協働的な学習を通して」

本校では、『つながり合い、学び合い、高め合う児童の育成』をめざし、主体的で協働的な学習を切り口にして国語科と理科を中心に授業実践を積み重ねている。児童は、興味関心をもって授業に取り組み、友達とかかわり合って考えようとする姿が多く見られるようになってきた。児童の具体的な姿を見据え、主体的な場面、協働的な場面についてさらに工夫を重ねて研究の充実をめざしたい。

- 公開授業 理科 4年「ものの温度と体積」
理科 6年「月と太陽」

- 指導助言 和歌山大学教育学部附属小学校 教諭 中西 大 先生
<全体にかかわること>

思考スキル (どう考えるのか)

考え方を示すと児童が考えやすくなる。(くらべる、わかる、かんけい・・・等)

主体的な学びのために

- ・学習や授業の進行を児童に委ねる。
- ・児童の思考にあわせ、教科の内容からそれないようにしつつ、児童の思考を止めない。
- ・児童がICT機器で記録を残す。自分が残した記録は、一生けん命かかわろうとする。
- ・現実と児童の認識のずれを認識させてやり、そこを追究していく。
- ・プロジェクト型で単元を作る。
 - ・事件が起こったから何とかしよう！「じしゃく博士 認定条件」
 - ・ゆで卵君を救出しよう「ゆで卵君救出の条件」
 - ・発電所の所長になろう「発電所の仕組みを知ろう」

協働的な学びのために

- ・協働するグループ内にいろいろな視点があり、誰かのこだわりがあり、それを一つのゴールに向けるイメージで行う。
- ・協働せざるを得ない場面設定をする。
- ・協働の対象を練る。相手意識をもたせるが、ペアか3人組か有効なところを探る。
- ・混沌とした状況から生み出されるものが協働なのではないか。

<4年>

- ・結果について、見る、触る、聞くの視点がよかった。
- ・「他の班の実験が・・・」「友達の意見を聞いて意見を変えた・・・」などの言葉、今までの実験を思い起こしながら話す様子、児童同士で確認しあいながら話す様子が、協働的な場面だった。
- ・児童の「わからない」というつぶやきを大切にしたい。

<6年>

- ・理科の楽しさをしっかり感じられる導入だった。
- ・黒板に月の形を貼りながら意見交換する場面は児童の混沌とした姿であり、学びになっていた。
- ・6年生だからこそ、ワークシートの書き方を児童から出させたり、情報が足りないなどを児童から出させたりしたい。それが追究する姿になる。
- ・児童のつぶやきのどれをどのくらい拾っていくかが課題になる。
- ・ふり返りの深まりをねらいたい。友達と話し合い、「どういうこと」「本当に」などと聞き合うなど、人に向けてふり返りを発信できるようにしたい。

<その他>

- ・単元の山場を予想し、それに向けて仕掛けを作り、児童の思考が一番高まるように設定する。実験は児童の関心がより高まるので、実験結果考察の場面を大事にすることが多い。
- ・めあては、教師がさせたい内容が書かれることが多い。課題は、教科として児童に考えさせたい内容になる。主体的な観点からすると、児童と、一時間かけてどうなりたいか、一時間の終わりにどうなりたいかを話し合っめあてを設定するようにしたい。

○研修の成果

主体的な手立てと協働的な手立てについて話していただき、より深い視点での手立ての工夫に気づくことができた。主体的な手立てとして単元の工夫や導入の工夫は行っているが、児童が思考を止めることなく、より対象にかかわっていかうとするような手立てを教えていただいた。協働については、職員間で個々の捉えになりがちなため、一つの方向性を示していただき、協働的な



姿について再度検討して共有したい。また、ふり返りでより深くふり返るにはどうしたらよいか、主体的にめあてを設定する仕方などについても助言いただき、今後の改善点を明確にすることができた。